



U

ワイユ- インフォメーション
information

山口大学広報誌 <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yu/>

NO. 99
2011.1月号



特集テーマ

夢をアイデアを
発見し、おどくみかやちにしよう

山口大学
おもしろプロジェクト



山口大学

Contents

特集 1

学生ならではのユニークな発案に資金を援助「山口大学おもしろプロジェクト」…………… 3

学生たちが自主性・創造性を発揮 “おもプロ”全採択事例18Files

- ぼくらの野菜作り -育てて、遊んで、感じよう- / めだかの学校 /
the Vapor Trail Freaks / en-JoY -医療現場における男女共同参画を目指して- …………… 6
- Reチャリクル / 科楽の楽しみを運ぶ ~学生隊~ -S.S.S~Students Squad teaching Science~/
International Friendship Project / コード・オレンジ / 慶南青年カレッジ2010 /
RED Carを走らせよう / 野生動物と出会おう! -人と動物が出会うきっかけづくり- /
もっと角島の魅力を伝えよう!! -角島ポータルサイト構築プロジェクト- /
まちつく3D ~手をつないで作る3Dマップ~/ ASCPiって、何?? / 山口観光らくらく検索 /
ホタルプロジェクト / WELCOME TO UBE!! / BEING FREEDOM / 探検!発見!山口大学☆ …… 7

特集 2

鹿児島大学・山口大学共同獣医学部設置構想

スケールメリットを生かし、世界レベルの獣医学教育を実現 …………… 8

山口大学と放送大学との包括的連携協定締結 …………… 9

「先生おじゃまします」研究室訪問 …………… 10

シゴトのコト [OB&OG Voice 先輩に聞きました] …………… 12

NEWS&TOPICS こちら山大情報局 …………… 14

やま だ い 歳 時 記



昨年は酷暑の夏でしたが、山口の冬は例年のように寒さが厳しくなっています。大学入試センター試験も終わり、次は一般入試が迫ってきました。新入学を目指す受験生にとっては、進学決定の真剣勝負の季節です。キャンパスでは、今年度最後の後期末試験が行われています。4年生にとっては卒論発表会など卒業式に向けたイベントが続きます。一方で、厳しい就職状況に直面している学生もいることでしょう。皆さんどうか身体に気をつけ、夢を形にすることができるよう最後まで力を出し切って頑張ってください。

学生ならではのユニークな発案に資金を援助 「山口大学おもしろプロジェクト」

山口大学独自の教育活動の一つに“おもしろプロジェクト”があります。

「こういうものがあったらおもしろいのに」、「こんなことをやってみたい」と学生が発想し、

仲間と相談しながら実行していく企画に対して、山口大学が資金支援を行う制度です。

その実態と成果、課題などを学生支援センター長の吉村誠教授に伺ってみました。



Profile

学生支援センター長

吉村 誠 *Yoshimura Makoto*

1954年奈良市生まれ。

国学院大学大学院文学研究科博士課程中途退学。

山口大学教育学部教授、国文学専攻、博士(文学)。

「おもしろプロジェクト」とはどのような取り組みですか？

発足した経緯なども含めて教えてください。

「おもしろプロジェクト」は山口大学の教育理念「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」に基づいて学生自らが発案・遂行・かたちにしていく創造的な企画に対して、資金援助を行うもので、教育の一環として行っている学生支援事業です。1996年、当時の広中平祐学長の発案で発足し、経費は当初、広中学長がポケットマネーから出されていましたが、現在は学長裁量経費から出ています。広中学長は「目に見える成果がなくとも」とにかく発見して、はぐくむことが大事。そして、失敗してもいいと言われていました。失敗も学びの一つということですね。その点は現在も大切にしています。私自身、「知」=知るということを重視し、とりわけ“なるほど”より“おもしろい”と感じられる、独創的で意外性のある発案に期待しています。よく例に挙げる「金魚のような鯨を作って大学の池で泳がせる」、「姫山にマツタケを生やす」といったような若者ならではの突拍子もない、向こう見ずな発想を歓迎しているわけです。そして、このプロジェクトをきっかけに新しいジャンルが発見されることも願っています。

過去の「おもしろプロジェクト」の中で、特にユニークだったもの、印象深かったものは？

2006年の「山口大学まんじゅう」はプロジェクトとしては終了しましたが、商品は現在も販売されています。また、山口大学がある平川地区の田んぼにメダカを呼び戻そうという「めだかの学校」は、当初は環境保護プロジェクトとして進められていましたが、次第に地域連携プロジェクトへと変わっていきました。イベントを通じて地域の方々や学生たちの間に理解が生まれ、交流の場が出来上がっていったのです。そうした「変質」を遂げる事例が出てくるのも「おもしろプロジェクト」の特徴といえるでしょう。その他、「ソーラーカー」もユニークでしたし、2010年は海水と淡水により発電した電気エネルギーで走る自動車が発案されました。宇部市の子どもたちと協力してペットボトル約1万本を使って高さ10mを超えるボトルタワーを作り、ギネスに挑戦するというものもありました。

「おもしろプロジェクト」は学生にどのような好影響を与えていますか？

ユニークな発想が評価されることによって、学生は発想の重要性を実感します。そして、自ら発案した内容について認識を深めていくのが最大の効果ですね。また、仲間と一つの目標に向かって一緒に計画を立て、役割分担

して遂行していくことで協調性も養われます。さらに、企画書や応募書類の作成作業は、自分の思いを書面化して伝える力を磨く訓練になります。応募書類には、大学が文部科学省に提出する申請書をイメージして規定を設け、マニュアルを作って書類作成についての指導も行っています。それらに沿って企画書を作り、プレゼンテーションを行う経験は、社会に出てからきっと役立つはずで。私がセンター長に就任してからは、そうした効果も意識しながらこのプロジェクトを展開しています。また、前年から引き継いだ内容の応募も多いのですが、「先輩がやってきたことを今度は私たちの手でやりたい」という継承の志がはぐ

くまれていく点にも教育的価値を感じます。選考では、受け継いだテーマであっても申請者によって新たな工夫がみられる点に注目しています。

「おもしろプロジェクト」について、学生、あるいは大学内外からの反響は？

以前は春休みに選考会を行っていましたが、そのせいかこのプロジェクトの存在を知らない学生も多いようでしたので、今年度から選考時期を5月に変更したところ、今までの倍以上の応募がありました。趣旨を知りさえすれば興味を抱いて主体的にかかわろうとする学生が多いということです。

「おもしろプロジェクト」は、2005年



おもしろプロジェクト

採択までの

フローチャート

おもしろ
プロジェクト

申請書類の 書き方講習会

学生支援センタースタッフによる講習会を開催する。

第1次申請書類 提出

学生支援センタースタッフが、意味のよく分からない文章や計画と経費の説明があいまいなものなどの不備等をチェックする。

度には文部科学省から特色ある大学教育支援プログラムとして選定されましたし、受験参考書に取り上げられたり大学説明会で説明を求められたりもして、山口大学の魅力の一つになっていると思います。他大学から視察に来られることもあります。その他、地域連携型のプロジェクトは、平川地区の方々から好評を得ていますし、国際関係では、韓国との交流などが密になって評価を得ています。

「おもしろプロジェクト」を通して学生に学んでほしいことは？

先にも述べましたが、主体的に学ぶ手応えを実感してほしいですね。高校までの段階でも課題探求型学習などがあったと思いますが、このプロジェクトを通してさらに深く、主体的に考え、行動していく自覚をはぐくんでほしいと思います。それは、誰もが社会に出れば求められることですから。

「おもしろプロジェクト」の課題や今後の展望はいかがでしょうか？

正直なところ、最近は発想がマンネリ気味で、もっと独自の発想が出てくればいいが…と感じています。また、限られた一部の学生たちが複数のプロジェクトを申請してくる傾向もあるので、応募の機運がもっと幅広い学生たちの間に広がり、新しい、ユニークな発想が出てくることを期待しています。今年度からは短期プロジェクトとして後期にも募集を開始したのでチャンスが年2回となり、より応募しやすくなったと思います。

「学生たちの遊びに金をつけるのか」という声も一部にはありますが、このプロジェクトは決して遊びではなく、学生たちの将来の重要な資質につながっていくものにとらえていただきたいのです。最近、PBL(Problem Based Learning=問題に基づく学習)が注目されていますが、その概念も踏まえ、山口大学のユニークな教育の一環としてさらに定着させていきたいと思っています。最近の学生は、やはり言葉で言えば、どうも肉食系が多いような気がしますが、これは肉食系学生を支援するプロジェクトともいえるでしょう。食らいつくように「ともかく自分はこれをやりたいんだ」という気概を持って努力する学生が増えれば、大学はますます活性化するはずで、山口大学の理念を実践していくプロジェクトとして、さらに充実させていきたいと思っています。

山口大学おもしろプロジェクト応募要件

- 学生自身が自主的に企画や運営をするもの。
- 独創性やユニークさに富んでいるプロジェクト。
- ゼミ等での研究、学位論文に関する研究と思われるプロジェクトではないもの。
- 学生だけで遂行することが不可能と判断されるプロジェクトではないもの。例えば登録商標の取得などが含まれているプロジェクトではないもの。
- プロジェクト構成員のなかに、最終学年以外の学生が含まれているもの。※次年度(4月以降)の最終報告会に構成員が参加できるようにする。
- プロジェクト構成員が山口大学の学部学生または大学院生で構成されているもの。(サークルでの応募も可) ※ただし、プロジェクト遂行にかかわる協力者として、本学教職員や学外者に協力を求めることができる。

プロジェクトの種類および支援金額

- 【長期プロジェクト】**
実施期間/2~3年
支援(最高)額/1年あたり100万円
募集/年1回(前期)
- 【中間プロジェクト】**
実施期間/1年
支援(最高)額/50万円
募集/年1回(前期)
- 【短期プロジェクト】**
実施期間/半期
支援(最高)額/10万円
募集/年2回(前期-後期)

応募方法

- 所定の様式である次の書類(ファイル)を各キャンパス担当係へ提出。
- ・プロジェクトの企画書
 - ・応募の動機
 - ・プロジェクトの計画・方法、準備状況、社会貢献ホームページ
- <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>
総合案内「教育・学生生活」→ 学生活動「おもしろプロジェクト」→ 「企画募集について」

問い合わせ先

- 学生支援部学生支援課支援企画係
083-933-5074もしくは083-933-5152
メール ga103@yamaguchi-u.ac.jp
- 学生支援センター辻研究室
083-933-5073
メール ttsuji@yamaguchi-u.ac.jp



第2次申請書類提出

第1次申請書類提出後に、不備等の修正をしたものを提出する。また、第1次申請書類を提出してなくても受付は行うが、申請書に不備のあった場合は受理しない。

書類選考

応募件数が多数の場合、選考委員により書類選考を行う。

プレゼンテーション

選考委員に対して、企画の目的や内容などについてプレゼンテーションを行う。

選考委員会

採択プロジェクトの決定

決定

“おもプロ”

学生たちが自主性・創造性を発揮

全採択事例 18 Files

発見をかたちへ。チャレンジ精神あふれる、現在進行中の
“おもしろプロジェクト”をご紹介します。

ばくらの野菜作り

—育てて、遊んで、感じよう—

FILE 1

このプロジェクトは、一般参加者ととも野菜作りを通し「食」について考え、学ぶことを目的としています。自然と触れ合い、野菜の成長過程や新たな発見を楽しく学び、収穫物を調理し味わうことで交流を深めます。

当初、野菜の苗を植える作業から収穫までの間に、数回参加者を募集する予定でした。しかし、最初の6月から8月まで、参加者はなし。募集チラシや配布場所の見直しなどの試行錯誤の末、9月には参加者の応募があり、プロジェクトを遂行することができました。すでに野菜は育ち収穫済みのものもありましたが、親子での参加だったので、それまでの成長過程をクイズ形式などにし、分かりやすく学んでもらうことができました。未収穫で残っていた野菜については、その後、収穫し調理しました。参加者からは感謝の声がたくさん届きます。「参加した親子の自然な笑顔に触れ、やってきて良かったと自分たちも温かい気持ちになりました」と代表の永田さん。



畑での収穫体験の様子

めだかの学校

FILE 2

大学のある平川地区に「めだか」が生息できるような川づくりを始めようと、1996年に発足したプロジェクト。川づくりを通して徐々に地域とのかかわりも深くなり、今では地域貢献・連携プロジェクトに発展しました。

活動は盛んで、月に2~3回は地域の人たちと一緒にチャレンジ教室など開いています。活動の中でも特に、平川夏祭りや秋に市内で開催される「アートふる山口」などには毎年参加。地域の大人と子どもが楽しみながら触れ合える企画を考え盛り上げています。

大学行事のみにとどまらず、普段から地域・社会とコミュニケーションが取りやすい環境にあるプロジェクトの一つ。いろんな人と出会い、刺激を受け、貴重な体験を重ねています。

「これからは、平川地域だけではなく、他の地域とも連携し、地域間・世代間の架け橋になれるよう活動を広げていけたらいいですね」と話すのは代表の古瀬さんです。



平川地域の住民との交流

the Vapor Trail Freaks

FILE 3

室内用の小型飛行機を設計・製作し、毎年9月ごろ開催される「全日本学生室内飛行ロボットコンテスト」に参加しています。活動時間は主に月曜から金曜の放課後。4月から機体のコンセプトなどについて会議を始め、6月ごろから設計・製作に入ります。

コンテストは主に体育館で行われ、小型飛行機を操縦しながら会場内の指定された場所へ物資を運ぶなどのプログラムをこなす、その性能や作業の正確さなどを競います。「機体の重さ制限が200g以内なので、機体の重さと強度のバランスをうまくとるのが難しいですね。コンテストでは他大学にノウハウを聞くことができるので、次の年に生かしています」と代表の蒲地さん。平成22年度は前年度の32位から15位に順位がアップしました。

もともとは工学部機械工学科の研究室から始まったプロジェクトですが、興味があれば文系の学部でもOKと、新メンバーの参加を呼びかけています。



平成22年度コンテストに参加した機体

en-JoY

—医療現場における男女共同参画を目指して—

FILE 4

en-JoYは医療現場における男女共同参画を学生の立場から追求することを目的とした、医学部女子医学生による組織です。女医の多くは、出産や育児などによって仕事を続けることが困難になったり、家庭と仕事の両立の問題に遭遇する現状があります。女子医学生が学生のうちにこういった将来の問題に対して意識を持てるような活動を行っています。

主な活動は、女子医学生と女医の交流の場として年一回開催している「茶話会」。ケーキとお茶を囲みながら、発表や講演を通じて医療現場と学生の相互理解を深めます。

他にも、県内外を問わず学会やシンポジウムに参加するなど活動の幅も広がっています。現在は県内の女性医師に対する支援制度の紹介、en-JoYの活動内容をまとめた冊子を作成しています。「県や市、大学にも協力をいただきながら誰もが働きやすい医療現場の環境づくりに貢献していきたいです」と話すのは代表の鬼塚さんと鈴尾さんです。



顧問の松田昌子教授(医学系研究科保健学系学域)を囲んで



ホタルプロジェクト



Reチャリクル



野生動物と出会おう!

プロジェクトのテーマは、国際交流やエコ、科学、観光、自然保護などさまざま。「発見」を「かたち」にしたいという、山大学生の意欲とアイデアがあふれています。

Reチャリクル

FILE 5

学内の放置自転車の問題に対して、環境サークル「エコファイターズ」が2009年秋から活動。不要になった自転車を卒業生などから譲り受け、希望する学生に貸し出しを行います。また、リサイクルした自転車の利用を通して、学生の環境意識を高めることも目標としています。

科楽の楽しみを運ぶ～学生隊～

FILE 6

-S.S.S~Students Squad teaching Science~

理科・数学離れの傾向にある小・中学生に対して、工・教育学部の学生が共同で、興味を持ってもらえるような出前実験を行います。子どもたちとペットボトルタワーを完成させ、ゲネス記録にも認定されました。

International Friendship Project

FILE 7

留学生と日本人学生がパーティーや異文化体験イベントを通じて、お互いの理解を深めます。伝統文化、多国籍料理、ハロウィンとさまざまなテーマで異文化体験イベントを行います。

コード・オレンジ

FILE 8

山口大学医学部の学生によるサークルが、市民による心肺蘇生法の普及を目指して活動しています。山大学生対象の講習会の開催や、他大学のワークショップにも参加しています。

慶南青年カレッジ2010

FILE 9

山大学生と韓国の学生が、両国の文化や歴史、価値観について相互理解できる交流イベントを開催。共に両国を訪れ文化に触れることによって地域の人々との交流も行っていきます。

RED Carを走らせよう

FILE 10

海水と河川水の濃度差を利用するRED発電によって、RED Carを走らせ、情報発信も行います。環境に優しい新規自然エネルギーとしてRED発電の知名度を上げるための取り組みです。

野生動物と出会おう!

FILE 11

-人と動物が出会うきっかけづくり-

野生動物と触れ合うことの素晴らしさを、普段野生動物にかかわることがない人たちに知ってもらうことを目的にイベントを開催。巣箱を製作し森に設置するとともに、生き物調査を行います。

もっと角島の魅力を伝えよう!!

FILE 12

-角島ポータルサイト構築プロジェクト-

角島は、観光スポットとして有名ですが、さらに多角的な魅力を伝えるため活動しています。角島の観光情報だけでなく文化や歴史も掲載し、角島の住民と意見交換ができるポータルサイトを構築します。

まちつく3D

FILE 13

~手をつないで作る3Dマップ~

学生の社会人基礎力の育成およびコミュニケーション能力の向上を目的としたプロジェクト。学生が主体的かつ創造的に活動し、長期プランで山口大学の立体地図を作製します。

ASCPiって、何??

FILE 14

米国で最も規模の大きい臨床検査技師承認機関が発行する臨床検査技師の国際資格(ASCPi)の日本での認知度を高めるために、学習会などを開催し情報提供を行います。

ホタルプロジェクト

FILE 15

2010年3月に結成された「ほたプロ」による山口大学内のホタルの保護活動。ホタルの飼育や生態の研究、広報活動を行い、ホタルの住みよい環境づくりを目指します。

WELCOME TO UBE!!

FILE 16

医学部の学生グループで医学部附属病院案内マップの英語版を作成。また、留学生とその家族を対象とする「留学生に対するフレンドリー日本語教室」で価値観や文化の交流を行います。

BEING FREEDOM

FILE 17

不登校や発達障害などの問題を抱える児童・生徒とその保護者、兄弟、姉妹に対する心のケアやリフレッシュを目的としたイベントの開催、また山大学生向けの不登校や発達障害に関する勉強会を開きます。

探検!発見!山口大学☆

FILE 18

「緑豊かな山口大学は老若男女が楽しめる地域の憩いの場になるはず」。そういった思いから、学内で見られる四季折々の動植物が記載された生物マップを作り、学外の方にも、このマップを利用してもらうことを目指します。



科楽の楽しみを運ぶ～学生隊～
-S.S.S~Students Squad teaching Science~

スケールメリットを生かし、 世界レベルの 獣医学教育を実現

山口大学と鹿児島大学の間において、平成24年度からの共同獣医学部設置に向けて、現在準備が進められています。共同獣医学部設置の構想や意義、さらには設置後の獣医学教育の在り方について農学部獣医学科の佐藤晃一教授にお尋ねしてみました。



佐藤 晃一 教授 | 獣医学科生体機能学講座
獣医薬理学研究室

共同獣医学部設置構想の背景と きっかけを教えてください。

構想の根底には「獣医学教育を改善したい」という願いがあります。第二次世界大戦後、日本の医歯薬学教育はさまざまな変革を遂げましたが、獣医学については、戦後すぐにアメリカ主導で教育体制が作られて以来半世紀、基本的には変わっていません。時代とともに獣医の職域や獣医学の研究分野は拡大し内容も深まっています。そのため、獣医学教員の間では約10年前に国公立大学獣医学部の再編成・統合の機運が高まりました。当時は実現には至りませんでしたが、各大学長に統合の必要性が認識され、獣医学部の教員増員の提案がなされたのです。その後、BSE、高病原性鳥インフルエンザウイルスなど新たな感染症の脅威や食の偏在化が進み、獣医学教育の改善がさらに強く求められるようになりました。今や、獣医学教育には単一大学では対応しきれない幅広い内容が求められているのです。

統合は獣医師不足解消の対策にもなるのでしょうか？

もちろんです。産業動物を担当したり地方自治体で働く獣医師は現在でも不足していますが、団塊の世代の退職もあって今後さらに深刻化します。また、先に述べたとおり感染症対策や食の安全保全など、獣医の活躍の場が近年特に拡大してきており、それらに対応できる人材を育てていくためにも共同獣医学部の設置が求められているのです。さらに国際的状況も絡んでいます。

人獣共通感染症や環境問題、 食の安定供給等の国際的課題 ですね？

そうです。世界的な獣医師団体のOIE(国際獣疫事務局)が2009年秋に開催した世界会議では「One World One Health」という言葉がキーワードになりました。つまり「ヒト、動物、環境を含めた健康の維持の重要性」と「もはや世界中がひとつにつながっている」という認識を世界中で共有し、獣医学教育に反映させていくという考えです。これに基づいた動きは各国で進み、アフリカ、中南米など

でもOIEの方針に沿った医学教育の改善が始まっています。しかし日本やアジア各国は遅れている。困ったことです。日本の獣医学が世界レベルに肩を並べるためにも教育体制の充実が急務であり、統合が不可欠なのです。

獣医が担う分野がそれほどまでに 幅広いとはイメージできない 人も多いのではないのでしょうか？

獣医というと、「伴侶動物(ペット)を診るお医者さん」と思い込んでいる人が多いですね。実際には、獣医学の研究対象は牛や豚、馬などの産業動物、感染症、さらにそれらの根底を支える基礎系研究など実に多岐にわたっています。しかし、これまで山口大学の獣医学科は伴侶動物の研究に特化し、卒業生の大半がその道に進んでいます。それには、県内に北海道や九州のような牧場がなく、在学中にも産業動物に触れる機会が少ないことが影響しています。反面、福岡・広島という都市圏に挟まれた山口大学では、伴侶動物や感染症についての研究が進んできたともいえます。一方、北海道や宮崎、鹿児島の大学の獣医学学生は、在学中から産業動物や大型動物にも慣れ親しみながら

学んでいくので、卒業後の進路もそういう分野を含めて多彩なんです。

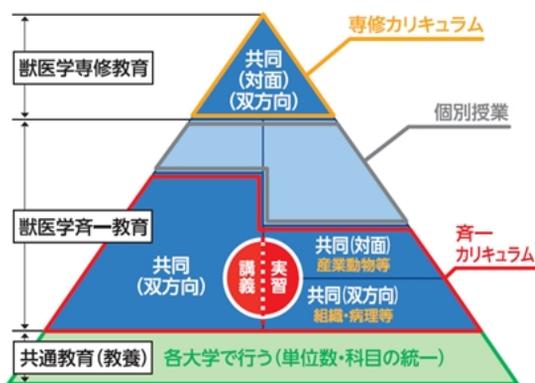
共同獣医学部設置の利点やカリキュラムの特徴は？

スケールメリットに尽きるといえます。共同獣医学部の教員は統合すれば58人(H22.12.1現在)となりますが、最終的には72人以上の体制を目指すつもりです。教員が増えれば講座も増やせますから、学生はさらに多くの分野について学べるようになります。つまり、山口大学は伴侶動物や感染症、鹿児島大学は産業動物といった互いの得意分野に特化しつつ、さらに基礎獣医学も加えて幅広い分野の教育が両大学で行えるようになり、世界レベルに遅れを取らなくなります。そして、卒業後の職域もぐっと広がりますし、将来さらに別の大学との再統合がかなえば、まさに世界レベルの獣医学教育が実現すると思います。

また、現在獣医学会を中心にモデル



共同教育イメージ図



獣医学専修教育

モデル・コア・カリキュラムを中心とした獣医学教育

獣医学専修教育

各分野の専門性を高めるために必要となる教育

斉一カリキュラム

斉一教育の中で同一教員が両大学学生へ授業する科目

個別授業

異なる教員が授業するが両大学でシラバスが統一された科目

専修カリキュラム

両大学が行う特色ある科目であり、選択必修となる。

コアカリキュラムの作成が進んでいます。これは、動物に実際に接する参加型臨床実習に臨む学生たちのレベル判定を行うためのものです。これをクリアした者だけが実習に参加できるという、医・歯学部では既に行われているシステムですが、2011年春には獣医学コアカリキュラムもようやく完成する見込みです。従来の教員数ではこなせないほどですが、共同学部になれば十分対応できます。

設置に向けた今後の動きを教えてください。

2011年5月末(予定)までに文部科学省に新しいカリキュラムの内容や教員の配置などを提出(設置申請)して、その後、認可を受けなくてはなりませんから、現在は出来上がった構想を書類化しているところです。鹿児島大学とは

テレビ会議と相互訪問を2週間に1回ずつ行って協議を重ねています。

将来、獣医師を目指す学生へのアドバイスをお願いします。

動物の医者に限らず、食の安全、感染症などさまざまな分野のスペシャリストが求められ、就職先も動物の医療現場だけでなく農林水産省・厚生労働省や地方自治体など多岐にわたります。獣医学部は非常におもしろい学部だといえますし、特色のある獣医を世に送り出せるのはわれわれ教員の喜びです。ただ、医の根底にあるのは「命を助け・守り・はぐくむ」ということ、さらに「安全」ですね。これらを一貫して考えることができる獣医師の卵を輩出するために共同獣医学部を設置するのです。高い志を抱いて入学していただきたいですね。

山口大学と放送大学との包括的連携協定締結

山口大学と放送大学は、平成13年に「単位互換協定」を締結し、それぞれの大学の学生に対して各大学の授業を提供するなどの取り組みを進めていました。平成18年、放送大学の理事長が本学を訪問したことを契機に、両大学の学長および理事が相互に各大学へ訪問し、将来的な連携協力の在り方についての協議を開始。平成20年度には覚書を交わし、単位互換プロジェクトの試行やeラーニングとリメディアル教材の活用方法などについての「研究会」を開催するなど、両大学の連携協力の素地を築きました。平成22年4月、丸本山口大学長と石放送大学長の懇談において、放送大学山口学習センター(山陽小野田市)の本学(山口市)への移転や今後の連携に関する基本合意がなされ、11月15日(月)、包括的連携協定の締結となりました。調印式は東京都港区の放送大学学園東京連絡所で行われました。





先生
おじゃまします

研究室訪問

おじゃました研究室は…

「山口大学の光化学研究拠点化と次世代光機能材料の開発」

川俣 純 教授 にお話をうかがいました!



大学院医学系研究科(応用分子生命科学系学域 生命物質化学分野)
川俣 純 教授

光化学の次世代を担う リーダーたちが集まる。

「20世紀は電子の時代でしたが、21世紀は光の時代といわれています。電話は電気信号で通信していますが今は光ファイバーでも通信できますよね。これからはコンピューターが電気ではなく光で動くようになります。小さな箱に電子が通る複雑な回路を押し込めるには限界がきているんですね。これまでよりさらに機能的な未来を切り拓くのが光にかかわる研究なのです」そう語るのは次世代型光機能材料の開発を行う川俣教授です。次世代型光機能材料とは光触媒や記録用光ディスクの材料、生物を染色する材料など、光を当てることで応答を示し生活のあらゆる分野で活用される新素材のことです。人類をより豊かにするこれら新素材の開発がこの研究推進体の目標となっています。

「私はハイビジョンテレビなど大容量データを記録するための光ディスク材料を開発しています。製品化のためには他のシステムより圧倒的なメリットがなければならず、先に売り出すことが必要で、まさに時間との戦

いですが、今世に出す努力をしているところです」

光化学の分野は競争が激しく、生き残っていくためには最先端の実験装置が必要になります。川俣教授をはじめ研究推進体の教授たちは、各自で世界最高レベルの機器類をそろえ共同利用できる環境を整えています。そういった環境で高い水準の研究成果が生み出されていくのです。

「製品の一面だけを取り上げて世にアピールしても伝わらないですから、さまざまなメリットを実証するためにあらゆる角度からの調査・研究が必要になります。光化学の分野は間口が広く先生たちの専門はそれぞれ違いますが、使う機器は共通するものが多いですし、さまざまな知恵を持ったスペシャリストたちが集まっていることはお互いにとっても大きな強みになっていますね」

本学理学部には日本の光化学の分野で次世代のリーダーといえる教授たちが多数在籍しています。この研究推進体にはそのリーダーたちが集まり、中四国では群を抜いてハイレベルな装置をそろえる光化学の研究グループです。

「ただ反面、ハイレベルな装置は故障すると修理費がウン百万円以上かかりますから維持管理は大変ですね(笑)」



紫外線から赤外線までのさまざまなレーザー光線を作り出す実験装置

独自の光技術によって染色したミトコンドリアをチェック

プロジェクトの概要

光化学の分野で世界をリードしている化学者がそろい、優れた次世代型光機能材料を開発することを目的としています。また研究に必要な先端機器を共同利用できるように整備し、高いレベルと機能的な研究体制作りを目指しています。

山口大学研究
推進体とは…?

いくつかの領域にまたがる研究テーマに対して、各学部の教授や研究者が専門分野を持ち寄り、学部の壁を超えて取り組む研究グループです。平成16年度に創設、21年度に再編成。地域課題研究の推進拠点づくりや若手研究者の育成を目的とし、世界水準の研究をめざしています。

おじゅました研究室は…

「統計的パターン認識によるヒトゲノム解析」

浜本 義彦 教授 にお話をうかがいました!



大学院医学系研究科(応用分子生命科学系学域 生命分子工学分野)
浜本 義彦 教授

長年の研究を生かす、 患者に応じたがん医療。

「がんは死に至る病ですが、早期で見つければ助かる可能性が高くなってきました。ただ、他の病気と異なり個性性が強く、患者によってさまざまな病態があるので、あらゆる角度から検査をする必要があります。そのため検査データが膨大になり、医療現場ではそこから何が役立つデータなのかを選別しなければなりません」

人間の遺伝子は約22,000個あるといわれています。がんは遺伝子の異常によって起こる病気ですが、以前までは多面的な検査・診断を行っても、どの遺伝子に注目すればよいかを見極めることが困難でした。医学の進化によってさらにさまざまな検査結果を得ることができるようになり、役立つデータをピックアップして診断に生かすにはコンピューター技術がますます必要になってきました。

「例えば内視鏡カプセルから得られるデータは10万画像。人間では到底すべての画像を診ることはできません。まさに“情報爆発”ですよ。膨大な情報の中から非常に少ない意味のある情報を取り出すために、統計的パターン認識

を専門とする私が登場することになりました」と浜本教授。

パターン認識とは、ある対象(パターン)を決められた概念(class)に振り分ける数学の理論です。この理論によって、コンピューターがパターンをclassに振り分けて物事を認識するのです。対象を“患者”とすると、その患者が“再発するがん”“再発しないがん”のどちらのclassに属するかを判別することになります。この統計的パターン認識理論によってデータを解析し、有用な情報を実際の医療の場へ応用・利用することによって、患者一人ひとりに合った個別化医療(オーダーメイド医療)を実現していきます。

「私はもともと工学部の情報系の専門家ですが、現在国内には統計的パターン認識の研究者はほとんどいません。二ホンオオカミといえれば大げさですが、非常に希少な研究者になってしまいました。ただ、この推進体での成果は、30年間研究を続けてきたからこそ成すことができました。研究も時のトレンドに乗るだけでは駄目で、長年信じる道を歩み続けて精進した人だけが成果を出せるのだと思います。私にとって研究は生きがいです。好きなことをやっている時って苦勞とは思わないですよ?」



画像処理などの飛躍的な
作業効率を誇る計算機「PCクラス」

浜本教授の著書
「統計的パターン認識入門」



プロジェクトの概要

統計的パターン認識の専門家と消化器がんの専門家が工連携によってがんの解明を行う研究グループ。肝臓がんの早期診断や抗がん剤の作用・副作用を予測する世界最高精度の遺伝子診断システムやそのプログラムを提供しています。

いろいろな土地へ行くと 新たな発見や目標を 見いだせるかもしれません。

Profile

有吉 舞さん 平成21年山口大学経済学部観光政策学科卒
広島県出身・在住
Ariyoshi Mai

MY JOB

株式会社広島東洋カープ

国際業務課に所属。外国人選手の契約交渉等が円滑に行われるよう、駐米弁護士に球団側の意思や意見を伝えたり、駐米スカウトが撮影したビデオ編集やスカウト資料をまとめたりします。また、外国人選手の家族が来日した際のサポートもしています。



TOEICの授業やテストで 英語力に自信をつける

高校時代、進路を考えているとき、山口大学に観光政策学科が新設されると知り、入学を決めました。近県にはない学科が、入学する年にできるなんて幸運でした。

旅行や観光が好きで、いろいろな国にも行ってみたいと思っていた私は、高校で英語コースを選択。海外への修学旅行やホームステイなどを通し、生の英語を学びました。ホームステイ先は、日本語が全く通じない環境だったので、辞書を片手に頑張った10日間が苦くも良い思い出です。

大学に入学してからもTOEICの授業やテストなどがあり、さらに英語力に自信がつかしました。観光政策学科では、経済学からのアプローチで観光を学び、また英語をはじめとした語学を学んでコミュニケーション能力を高めることができます。ゼミでは観光統計学を専攻しました。山口県の主要観光地で観光客に、どういうルートで旅行をしているかなどのアンケートを取りました。SLに乗ってキャンペーンのチラシ配りなどもしまし

た。雰囲気のある客車は、旅のムードを盛り上げてくれますよ。一度は乗車してみても？プチ旅行にもおすすめです。



高校生のころ行ったオーストラリアのホームステイ先にて

他にない地元ならではの 英語力を発揮できる職場

就職活動は地元の広島県内の企業に重点を置きました。人と話すのが好きなので、サービス業のような職種を中心に探していました。その中で、他にない地元ならではの企業で面白そうだなと思ったのが「広島東洋カープ」でした。高校・大学で培ってきた英語力を発揮できる職場でした。球団が欲しがっている外国人選手の獲得に向け、駐米弁護士から代理人に球団側の意思を伝えてもらいます。先方からの要求等に早く回答しないと他球団に獲られてしまう

こともあるので、スピーディーに事を進めなければなりません。報告が遅れないこと、早目の準備・行動を心掛けています。会計業務にも携わっているので、簿記なども勉強しておけばよかったと思いました。簿記が役立つ職種は多いと思います。

また、外国人選手の家族が来日した際、日本を満喫してもらえるよう心配りもします。選手の家族が帰国する前に「ありがとう、楽しかったよ。また来るね」と喜んでくれると私もうれしくなります。

学生のうちに、時間を見つけているような場所に出かけてみるのもいいと思います。知らない土地に行くことで、視野が広がり新たな発見や目標を見いだせるかもしれませんよ。



就職して痛感したのは、 大学での勉強が基本と なっていることです。

Profile

松村 明弘さん

Matsumura Akihiro

平成20年山口大学大学院理工学研究科博士前期課程修了
下松市出身・周南市在住

MY JOB

株式会社トクヤマ

総合化学メーカー。生産技術部門・エンジニアリンググループに所属。太陽電池の原料となる多結晶シリコンの新製法の開発など、環境・エネルギー分野に精通する仕事です。



大学院で見えてきた 就きたい職業の方向性

将来の進む道を模索していた高校時代。理系コースを選択していたので、大学は工学部機械工学科へ進学しました。機械工学の基礎から応用と、いろいろなことを勉強するにつれ、橋やビル、小さな机や椅子まですべての構造物は、「計算の上で成り立っている」ということを知りました。そこから、この分野に興味を持ち始め、さらに深く学びたいと思うようになりました。研究室では「制御理論」について仲間たちと研究を重ねる日々を過ごす中、より専門的な知識を習得したいと思い大学院へ。おかげで、将来就きたい職業の方向性が見え、選択肢も広がりました。

大学院に進んだ年の秋、いろいろな企業の説明会へ行きました。地元で働きたいという希望があったので、地元の企業を積極的に探しました。ある説明会で「株式会社トクヤマ」のブースへ参加。リクレーターの方から話を聞き、自分の会社を愛し誇りを持っていると強く感じました。後日、再度詳しい説明を受け、やりがいや達成感が得ら

れる会社だと確信し、ここへ就職したいと思いました。

学校での勉強はどこで 役に立つかわからない

実際入社してみて感じたのは、必要な知識の幅がとても広いということです。もちろんその中には大学で学んだ事も含まれ、時には大学の教科書を見返すこともあります。学校での勉強はどこで役に立つかわかりませんから、しっかりと学んだほうが良いですね。業務ではその他に、法律や各機器の知識など学ばなければならないことが山ほどあります。現状は勉強の日々が続いています。

現在私は、太陽電池向け多結晶シリコンの新製法開発に携わり、プラントの改良やメンテナンスを行っています。まだまだ経験不足は否めませんが、ある程度の範囲をまかせてもらっているため、自分の意見が言え、やりたいことがやれる環境にあります。その分、厳しい面、大変な面もありますが、成長を期待されているということ、「人材」として大事にされているとい

うことを強く感じながら業務を行っています。もちろん、困ったときには先輩や上司に気軽に相談できる雰囲気もあります。忙しい毎日ですが、充実感もありますし、徐々に仕事に対する自信もついてきました。

そんな上司や先輩とコミュニケーションを図る場として、飲み会に参加するのも良いのではと思います。仕事から離れたいろいろな話も聞けますからね。自分にとっては社会勉強にもなります。

何かしていてもしなくても時間はあっという間に過ぎていきます。勉強以外のサークル活動やアルバイトも貴重な経験になると思いますが、「やる時はしっかりヤル!」と、時間を有効に使うことをおすすめします。





NEWS & TOPICS

こちら山大情報局

山大のコトがもっとわかる話題やニュースをお届けします。

NEWS & TOPICS 01

山口大学小串団地構内立体駐車場が完成

このたび、山口大学医学部附属病院への利便性向上と病院周辺の渋滞緩和のために、立体駐車場が本学小串団地に完成し、12月24日(金)、完成記念式典が行われました。完成した駐車場は、3層4階建てで、512台の収容が可能です。式典には、来賓として久保田后子宇部市長をはじめとする宇部市関係者、特例財団法人朋和会の長谷知之理事長、藤田政之新川自治会長が、また本学から丸本学長をはじめ学内関係者が出席しました。

式では、丸本学長が「宇部市、朋和会そして地域の皆様のご協力に感謝します。これからも山口県の基幹総合病院として、地域のみなさんに愛される病院を目指したい」と謝意を表し、久保田宇部市長が「宇部市としても、地域医療の充実と医学部附属病院の利便性向上のために協力していきたい」と祝辞を述べられました。また、岡医学部附属病院長は「今後も、高度医療の提供、人材育成そして新医療の開発に取り組んでいきたい」と抱負を述べ、最後に、来賓および学内代表

者によるテープカットが行われました。

附属病院では、来年1月からドクターヘリの運航も予定しており、この駐車場の完成と併せ、より多くの方々が高度医療を受けやすい環境が整うことを期待しています。



NEWS & TOPICS 02

時間学国際シンポジウム「体内時計と健康社会」を開催

12月10日(金)、小串キャンパスの霜仁会館において、本学時間学研究所主催による、時間学国際シンポジウム「体内時計と健康社会」を開催し、研究者や一般の方など130人が参加しました。このシンポジウムは、時間学研究所の設立10周年を記念し、時間学の中核を担う領域である時間生物学に関連する研究成果を広く社会へ還元することを目的に実施しました。

シンポジウムでは、初めに時間学研究所の明石真教授が「ここまでわかった体内時計のしくみ」と題し、これから期待される体内時計の活用方法などについて、自身の研究成果をもとに講演を行いました。引き続き、アメリカ・フロリダ州立大学医学部のチューゴン・リー准教授が「Timing is everything : The secret of the biological clock タイミングがすべて：生物時計のひみつ」、スイス・チューリッヒ大学薬理学・毒性研究所のステューブ・ブラウン教授が「A cellular approach to studying human daily behavior 細胞学的手法によるヒト行動リズム研究」、労働安全衛生総合研究所の高橋正也上席

研究員が「『変な』時間に働く人々の健康を守るために」と題し、それぞれ、マウスを利用した概日時計(約24時間周期の体内時計)の根幹メカニズム研究、概日時計によるヒトの行動メカニズム研究および生活リズムが不規則な交代勤務労働者の健康管理について、講演を行いました。

体内時計に関する最先端の研究についての講演に、質疑応答も活発に行われ、参加者にとって、健康な生活を送るためには、体内時計に対する知識が必要であることを理解する有意義なシンポジウムとなりました。



時間学研究所 明石教授

山口大学創基200周年ロゴマークおよび キャッチフレーズが決定

昨年12月14日、山口大学創基200周年ロゴマークおよびキャッチフレーズ募集企画の受賞者への表彰式が行われ、ロゴマーク部門とキャッチフレーズ部門、それぞれ最優秀賞1人、優秀賞2人の計6人が表彰されました。

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽によって1815年に創設された私塾山口講堂から起算し、2015年に創基200周年を迎えます。本学はこれを祝いたいと考え、創基200周年ロゴマークおよびキャッチフレーズを、山口大学の学生、教職員、OB・OGを対象に募集したところ、ロゴマーク部門41作品、キャッチフレーズ部門133作品の応募があり、その中から選考委員会の審査により、各々上位3作品が選ばれました。

式では、西田副学長(総務企画担当)からの選考経過報告および受賞作品の紹介の後、丸本学長が、受賞者一人ひとりに表

彰状と副賞を授与しました。続いて、受賞者の方々から、一言ずつ感想が述べられ、皆、名誉ある賞の受賞を喜び、感謝の意を表していました。その後、丸本学長から、「受賞者の皆さん、おめでとうございます。見事なロゴマーク、キャッチフレーズが集まり、200周年を越えて頑張る勇気をもらいました」と祝辞が述べられ、最後に記念撮影を行い、式は和やかな雰囲気の中に終了しました。

「志」つなぎ 伝える 二百年



ロゴマーク、キャッチフレーズ、受賞者等の詳細は山口大学Webページでご覧頂けます。
[URL]<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~soumuka/200hp/index.html>

工学部の学生らがギネス記録を達成

昨年11月14日、工学部の学生らが、「ボトルで作る世界一高い彫刻」という種目で、見事ギネス記録を達成しました。

この試みは、子どもたちにもものづくりの楽しさと資源の大切さを知ってもらおうと企画されたもので、宇部市子ども会育成連絡協議会の児童たちが中心となって、使用済みペットボトルを回収し、山口大学「おもしろプロジェクト 科学の楽しみを運ぶ」の学生がそれをを用いて、宇部市ときわ公園で、東京スカイツリーを模した高さ11.37メートルのペットボトルタワーを完成させました。

昨年度も同様の挑戦を行い、7.39メートルのタワーがギネス

認定されましたが、今年度は、その記録を大幅に塗り替えることになり、挑戦した学生たちは、「周りの人たちの協力があったからこそ達成できた」と、支援していただいた方々や仲間と記録更新を喜び合いました。

完成したタワーは、12月4日～28日、同公園で開催されたTOKIWAファンタジアイルミネーションコンテスト会場に展示され、来園者を魅了しました。



東アジア研究科長 福田隆眞教授監修の 「解析台湾・日本美術教育と児童画」

美術教育を専門としている東アジア研究科長 福田隆眞教授が監修を手掛けた本を紹介します。

この本は、台湾と日本の幼稚園、小学校、中学校における美術教育を紹介する一方で、それぞれの国(台湾は花蓮県と台北、日本は山口県と北海道)の児童・生徒による絵画などの作品を取り上げ、具体的に解説した中国語による解析書です。

台湾と日本の教育課程の違いから生じる指導方法や、教材・教具、主題の選び方、表現方法などの類似点と相違点が、児童・生徒の作品を通じて感覚的に理解できるものになっています。

例えば、小学校3年生ぐらいまでの子どもたちには、国や地域が

異なっても、花、家、人物、太陽、基底線(自分が立っている地面の線)など、似たような象徴的表現をする「スキーマ(図式)」と呼ばれる類似点が見られます。

一方、小学校高学年になると、それぞれの生活環境や文化の違いにより、色の使い方や構図の取り方などの相違点が出てくることを結論づけた、興味深い内容となっています。



EVENT CALENDAR

イベントカレンダー(2月・3月)

2月	1日	火	学内業界・企業研究会(～2月23日)
	7日	月	推薦入試Ⅱ(工学部を除く)・帰国生徒入試(農学部獣医学科)合格発表
	12日	土	体育会サッカーマッチ(～13日)(吉田キャンパス)
	14日	月	文化会サークルズ・ミーティング・キャンプ
	15日	火	学内業界・企業研究会 やまぐちday(吉田キャンパス)
	25日	金	一般入試前期日程・私費外国人留学生入試(経済・工学部除く) 入学者選抜試験(～26日)
3月	4日	金	体育会サークルリーダー合宿研修(～6日)(山口徳地青少年自然の家)
	8日	火	一般入試前期日程・私費外国人留学生入試(経済・工学部除く)合格発表
	12日	土	一般入試後期日程入学者選抜試験(～13日)
	16日	水	大学院学位記授与式
	22日	火	卒業式・大学院修了式 一般入試後期日程合格発表
	24日	木	山口大学ガイダンスセミナー(山口グランドホテル)

 **Uinformation**
ワイユー インフォメーション
山口大学広報誌第99号

編集発行 山口大学広報委員会(総合企画部広報チーム)
住所: 山口市吉田1677-1 電話: 083-933-5007 Fax: 083-933-5013
E-mail: sh011@yamaguchi-u.ac.jp

広報委員会委員

●西田 輝夫(副学長(総務企画担当)) ●木下 武志(副学長補佐) ●坪郷 英彦(人文学部) ●石井 由理(教育学部)
●成富 敬(経済学部) ●木内 功(理学部) ●坂井田 功(医学部) ●清水 則一(工学部) ●阿座上 弘行(農学部)
●何 曉毅(大学教育機構) ●近久 博志(産学連携・イノベーション推進機構) ●小河原 加久治(大学情報機構)
●長畑 実(エクステンションセンター長) ●藤井 大司郎(アドミッションセンター長) ●梅木 哲也(総合企画部広報チーム)

広報学生スタッフYU-PRSS(ユープラス)

●小枝 佑佳 ●繁富 志織 ●島津 梢 ●安成 啓佑 ●林田 久恵 ●原内 由佳 ●桐原 祐太 ●国本 亮
●久保田 法彦 ●入江 貴博 ●佐々木 裕美 ●黒江 那津子 ●長岡 奈緒子 ●前田 梨乃 ●吉岡 優一
●河島 あかね ●溝口 明音